

## 成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成24年5月成田市教育委員会会議：定例会

期日 平成24年5月24日（木） 開会：午後2時00分 閉会：午後3時11分  
会場 成田市役所5階503会議室

### 出席委員

委員長	小川信子	委員長職務代理者	秋山皓一
委員	山口恵子	委員	小川新太郎
教育長	佐藤玉江		

### 出席職員

教育長	佐藤玉江（再掲）		
教育総務部長	古関修	生涯学習部長	諏訪峰雄
教育総務課長	伊藤和信	学校施設課長	葛生行広
学務課長	高山勇	教育指導課長	山下隆文
学校給食センター所長	藤崎吉宣	生涯学習課長	藤崎祐司
生涯スポーツ課長	大矢知良	公民館長	櫻井孝夫
図書館長	大木孝男	生涯学習課副主幹	伊藤幸範
教育総務課副主幹(書記)	宮崎由紀男		

傍聴人：0人

### 【会議概要】

#### 1. 委員長開会宣言

#### 2. 教育長報告

### 主催事業

- ・5月1日 第5回下総地区小中連携推進委員会について

下総地区統合小学校の2年後の開校に向けて、部会毎の課題の整理、今後の進め方と概ねのスケジュールを示したうえで、了解をいただいた。この後、5月17日には専門部会を開催した。

- ・5月7日 生涯大学院同窓会定期総会について

生涯大学院を卒業された方々が同窓会という形で会を結成し、独自に活動をされている

団体で、137名で構成されている。

・5月9日 平成24年度成田市生涯大学院入学式・開講式について

今年度の入学生（一年生）は82名、2～3年生は開講式を行った。午後からは講演会など授業が始まった。毎年、たくさんの人に入學していただいております、最後まで頑張ってください。

・5月9日 成田市校長会議について

今回の不祥事を踏まえて、臨時の校長会議を4月に開催したところであるが、管理職としてのあり方について話をさせていただきました。管理職においては、いろいろなことで誤解される場面もあるけれども、何か起こった時に言い訳をするのではなく、全て仕事で自分の姿勢を示すことが本来の校長の姿であり、職員一人一人の気持ちをしっかり理解したうえで学校経営をしていただきたいと思いますと話をし、その後伝達を行った。

・5月14日 平成24年度第1回学校適正配置推進庁内検討委員会について

庁内体制も新年度、人事異動により変わったため検討部会合同で、これまでの経緯、大栄地区の問題、下総地区統合の今後の進め方などについて、委員の共通理解を図るため開催した。

・5月15日 成田ポップラン大会実行委員会について

実行委員会の組織、大会要綱、予算等について審議いただいた。閉門については昨年と同様に設けることとした。参加者からの要望に対応することや救護体制を充実することは大事なことであることから、その分経費もかかるため、ハーフマラソンの一般の部に参加する方は500円値上げして3,500円とさせていただき、安全対策等の経費に充てさせていただくことで了解をいただいた。また、表彰式のあり方等昨年の反省を踏まえて今年度の実施にあたっては細かい所にも配慮して行うことを報告した。

・5月16日～7月3日 千葉県北総教育事務所所長訪問、次長訪問について

5月22日平成小学校と中台小学校の次長訪問に委員長とともに出席した。平成小は教育目標・計画がしっかりしたものが出来ており、子供たちも大変落ち着いていて、先生方も頑張っている様子が見てとれた。中台小は今回の一連のことを受けて、1年生の担任が途中から代わったりしたことで落ちつける状況ではないが、今後は少しずつ落ち着いていくと思うので、これからは期待したい。

・5月19日 平成24年度明治大学・成田社会人大学開講式

今年から学長が福宮学長に代わり、当日ご挨拶をいただいた。今年は、国際社会課程に132名、地域社会課程に103名、緑地環境課程に44名の方が入学された。明治大学の先生方も普段大学生に教えるのとはまた違う、社会人に教えることの楽しさがあることをおしゃっていた。12月までの間、みのり多いものとしていただきたいと思います。

・5月21日～25日 校長目標申告・教育長面談について

目指す教育の目標は各校長持っているが、それを具現化するために具体的な事項を定め

て、数値化して見える化をする取組をする学校がいくつかあり、その取組はわかりやすく良かった。これまでの学校独自で実施している学力検査に見える化を図る取組を取り入れるなど、それにより他の先生方も目標申告を考えやすくなり作りやすくなるのではないかと。みなさん其々に工夫して、学力の向上、不祥事の防止について目標を掲げていた。

## その他

- ・ 4月28日 成田市文化団体連絡協議会総会について
- ・ 4月28日 平成24年度成田市体育協会定期総会について  
いずれも年度当初の定期総会であり、会長と役員の変更、実績報告、決算、今年度の事業計画等が審議された。
- ・ 5月8日 印旛地区教育研究会定期総会について  
成田国際文化会館での開催であり、地元の教育長として挨拶をさせていただきました。
- ・ 5月10日 篠崎輝夫展覧会について  
千葉県美術館においてシルクロードをテーマに大小合わせて43点の作品が展示されており、会場ではシルクロードで実際に描いている様子がビデオで流されていて、筆の動きなどが分かり絵を描く人にとっては興味深いものだった。
- ・ 5月12日 平成24年度ユネスコ協会定期総会について  
定期総会では、事業報告、決算等が審議された。また、玉造中学校がユネスコスクールに認定されたという報告があった。
- ・ 5月12日 成田市PTA連絡協議会定期総会について  
定期総会後の教育懇談会には、小中学校の校長先生、教頭先生が出席されるなど、110数名の方が参加された。先生方やPTAの方との話の中ではいろいろなことを教えられることも多く、有意義なものであった。  
定期総会の中では、古関教育総務部長と山下教育指導課長から通学途中の交通事故と不審者についての話があり、特に交通事故については他所で大きな事故が続き、小泉市長も大変心配している。毎年8月にPTAが通学路の危険箇所について点検して報告しているが、それより前に緊急を要する箇所があれば報告して欲しい旨お願いした。それを受けて、できることをやっていきたい考えである。
- ・ 5月13日 「2012 NARITA 少年の翼」結団式について  
例年姉妹都市であるニュージーランドのフォクストンへ小中学生を派遣しているが、今年からはニュージーランドに加えシンガポールの文化にも触れるとのことで、行きと帰りにシンガポールを見学する予定であり、8月22日から8月30日までの間で実施される。団員は小中学生合せて30名にリーダー10名他が参加し、この後研修が行われる予定。
- ・ 5月16日 平成24年度第1回教科用図書印旛採択地区協議会について  
協議会委員として小川委員長と出席し、今後の協議の仕方について話し合いがされ、今年の本採択ではなく、形式採択を7月に行う予定である。

- ・ 5月17日・18日 全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会について

出雲市で開催された全国大会に初めて参加させていただいた。研修では3部会に分かれ研究協議が行われた。学校教育部会に参加し、特別支援学級のあり方や就学相談の先進地の発表があったり、これまで福祉と教育がつながることを考えてきた中で、大変参考になった勉強会であった。アトラクションでは、塩津小の1年生から6年生までの全員が参加して行われた「やまたのおろち」の神楽をみせていただいた。大変すばらしいものであった。

当日は、文部科学省の審議官の方も説明に来ていて、文部科学大臣の祝辞の代読をした中で、学校施設の問題、耐震化・防災機能の強化の取組に積極的に取り組んでいくということで予算化も図ったとの話があった。

また、教育改革が必要な中で、特に3点のことについて力を入れてほしいとの話があった。

一つは、通学途中の児童の列に車が突っ込む事故が相次いだので、教育委員会においても警察や道路管理者などの関係機関と一層の連携・協働して通学路の安全点検や安全確保のための取組を行ってほしいという話があった。2点目は、中学校の武道が必修化されたことに伴い事故も増えているため、研修などにより安全かつ適確な武道の授業のために適切に対応してほしいということであった。3点目は、教職員の兼職・兼業の許可や学校会計処理に関して、関係規程などに則り、適切な対応をしてほしいとの話があった。

- ・ 5月20日 平成24年度成田市子ども会連絡会総会について

総会では、決算・予算に加え、新しい陣容での子ども会連絡会での役割が決められた。

- ・ 5月23日 第40回第二部会小学校陸上競技大会について

成田市、富里市、栄町の44小学校の子どもたちが参加しての競技大会であった。

- ・ 5月23日 任期付職員採用面接について

育休等の代替職員6名の方について、面接を行った。今後は必要に応じて配置されていくことになる。

- ・ 5月24日 (財)印旛郡市文化財センター第84回理事会について

平成23年度の決算について報告を受けた。

#### 《教育長報告に対する主な質疑等》

古関教育総務部長：5月10日・11日に山梨県甲府市で関東都市教育長協議会に教育長の代理として出席をした。1日目は協議会の事業報告、決算や予算について審議が行われ、2日目は分科会毎の勉強会が開催され、学校教育部会に参加した。松戸市教育委員会の英語教育の取組についての発表があり、松戸市ではALT10名で、授業では映像を活用し、子どもたちが画面を見ながらやり取りをするなどの取組が行われており、

そのシステム導入費用に6千万円をかけたとのことであった。子供たちを飽きさせないような工夫がされているということで、保護者にも好評とのことでした。

委員：本日、ふれあいコンサートを聴かせていただいたが、大変すばらしい演奏であった。ロビーでの演奏は気軽に聴けるという利点はあるけれども、銀行ATMやその他の雑音もあるため演奏者の方も気にしていたように見え、大会議室を使用できればいいと思うが。

藤崎生涯学習課長：大会議室の利用率が高く、昼休み1時間の使用でおさえることは、他の会議に影響がでるため難しい。エレベーターや自動販売機の音もあったため、次回からは改善し、出来るだけ聴きやすい環境を提供していきたい。

委員：成田ユネスコ協会の報告の中で、玉造中学校がユネスコスクールに認定されたとのことであるが、ユネスコスクールとはどういうことか。

佐藤教育長：エコ教育のことであり、自然も含めて学校で取り組んできた省エネの取組等全部を含めた対策を持続発展教育といい、学校としてそれを実践していくことで、ユネスコ本部に申請し、認可を受けるものである。成田市では、他には成田高校が該当している。

委員：学校訪問で、向台小と橋賀台小、中台小に行った。その中で、不登校の子がいて、その子は福島から来た家庭で、父親は福島で働いており、成田で母子だけで生活している。こういうところにも影響がでていると感じた。

委員：次長訪問で大須賀小、前林小、新山小、橋賀台小の4校に訪問した。学校によって子供たちの雰囲気が違う気がした。授業中、先生の指示に従ってきちんと発表ができている学校もあれば子供たちの不規則発言が多い学校もあった。これは、校長を中心とした指導体制、学校体制の問題と思われ、どの学校も教室の前に話の聞き方や発表の仕方について貼り紙をしているが、貼っているだけになってしまっている。常に授業の時には振り返って、子供たちの不規則発言に対して注意をすることが必要であり、そうした指導が徹底されないことには習慣化していかないとと思う。そうした先生の対応の違いが学校経営の中で格差として表れている。校長の指示によるところも大きいし、研修や職員会議の中で常に振り返っていかないと深く物事を考えられる子どもは育っていかないと思う。

また、5月18日に川口市で行われた関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及

び研修会に秋山委員と出席した。研修会では、文部科学省の方から「学校図書の充足率について」話があり、全国で小学校が50.6%、中学校で42.7%と全国的には低い数値となっているとのことであった。成田市は、旧成田市は100%だったと思うが、大栄地区と下総地区を含めてはどうなっているのか？

伊藤教育総務課長：手元に資料がないため、後程回答させていただく。

委員：研修会の中では、歴史家の加来耕三氏の講演もあり、大変面白い話をされた。テレビの仕事も携わっているとのことで、大河ドラマの歴史・時代考証は誤りが多いとのことであった。歴史を勉強していれば、将来、仕事をする上でも大変役に立つとのことで、仕事をしている中で、おかしいと思った時は、一度立ち止まって振り返ることが大事なことである、などためになるお話をされた。また、学校教育においても何か一つのこと、例えば部活動などを継続して一生懸命やった者はいつか必ず大成するというお話をされた。

委員：加来氏の講演は、素晴らしい講演であった。歴史上はつきりしない人物ほど物語としては上手く作れるなど、歴史家としての大変興味ぶかい話を聞くことができた。

委員：学校訪問の追加だが、ある小学校の2年生が書き方練習をしているときに、芯の減った鉛筆を使用していて、他の子も同じように芯の減った鉛筆を使っていた。別の学校ではそんなことはなく、これも先生の指導が違うことによるものなのか学校によっていろんな面で様子が違うと感じた。

伊藤教育総務課長：先ほどご質問のあった学校図書の達成率については、平成22年度では小学校13校、中学校3校が未達成である。平成24年度の見込みは、小学校は10校に減り、中学校は1校に減る見込みである。下総・大栄地区の小学校については、達成率は低くても73%以上であり、大栄中については88%の達成率である。図書については、学校配当の配分により購入しているが、達成率の低い学校には調整して配当する考え方で改善していくようにしている。また、吾妻小は達成していたが、児童数が増えたことにより達成率が90%台に落ちた。

佐藤教育長：国としても予算的措置については積極的に考えているとの話があり、国を挙げて読書教育を推進していると聞いている。

### 3. 議 事

## (1) 議案

(成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<これより非公開>

議案第1号 成田市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について

《審議結果》

承認

議案第2号 財産の取得について（公津の杜中学校学校給食共同調理場に係る厨房機器）

《審議結果》

可決

<非公開を解く>

## (2) 報告事項

報告第1号 大栄地区の統合小学校について

【古閑教育総務部長 資料に基づき報告】

(要旨)

教育委員会では、平成20年3月に、市内小中学校の児童生徒数を推計し、学校適正配置の方向性を示した「学校適正配置調査報告書」を公表した。豊住中学校を始めとした学校統廃合、公津の杜中学校の新設など、各地区において学校適正配置を進めてきたところである。大栄地区における平成20年3月の学校適正配置に関しては、現在5校ある小学校を2校の新設校へ統合するものであったが、その後、報告書の公表から4年が経過し、大栄地区の小中学校児童生徒数推計によると、平成29年度までの推計値においては、大須賀小学校をはじめとして全体的に児童数の減少傾向が顕著となってきた。これにより、平成20年3月に見込んでいたように、統合校2校がそれぞれ1学年で複数学級を確保し、広がりある教育環境を維持していくことは現実的に厳しい状況が見えてきた。

また、教育委員会では、大栄地区の住民と意見交換を行うため、今年の1月30日から2月10日にかけて、5校の小学校及び地区区長会会議で保護者、地区住民、各区長に対し説明会を実施した。説明会では、参加者の皆さんから多くの意見をいただき、学校統廃合に関しては、

受け入れる旨の発言が多くあり、統合するなら1校がよいのではないかとの意見をいただいた。さらに、下総地区が行う小中一貫教育が望ましいといった意見もいただいたところである。そこで、教育委員会としては、住民からの意向を踏まえるとともに、大栄地区の児童数の現状を考慮し、小学校統合については、2校から1校とする方針で進めていきたいと考えている。また、1校に統合ということから、下総地区で取り組む、同一敷地内での小中一貫教育を大栄地区にも取り入れたいと考えている。

このような考えのもと、統合小学校の建設の候補地を決めなければならないが、同一敷地内で小中一貫教育を推進することから、大栄中学校の敷地内に建設が可能かどうかという課題が浮上してきた。大栄地区の5校を統合すると、児童数で、約500人規模の小学校になり、数的には平成小学校と同規模の校舎の建設が必要となる。そうすると、現在の大栄中学校の敷地をかなり拡張する必要があるが、大栄中学校は校舎、プール、グラウンド、野球場がそれぞれ段差のある敷地に建っている。また、学校前の水田との高低差は約13mあり、裏の山林との高低差も約23mあるため、敷地を拡張するには、様々な課題が出てくるものと思われる。この様なことから、まずは拡張方針検討や校舎の配置計画の検討など、基礎的な調査から進めていくための調査の必要性が出てきた。この調査に要する経費については、措置していないことから、9月補正で予算計上し、年度内には調査結果を出したいと考えている。

大栄地区の統合小学校については2校から1校とすること、また、統合にあたっては小中一貫教育を推進するため、大栄中学校の敷地内に小学校の建設が可能かどうか調査すること、以上2点について、の報告とする。

《 報告第1号に対する主な質疑 》

委員：大栄中へ行くのにスクールバスで一番遠い所でどれ位かかるのか。

葛生学校施設課長：一番遠い多古町の境で10km強はある。

委員：バスで通学時間はどれ位かかるのか。

葛生学校施設課長：途中経由して30分位はかかる。

委員：現状でも、歩いて通っている子どもたちは30分位はかかっているのか。

佐藤教育長：大栄地区は30分よりかかる子もいる。例えば大須賀小では、40分以上はかか

る子どももいる。

委員：統合すれば、近くなり、少なくとも通学時間が長くなることはなくなるのでは。

佐藤教育長：スクールバスであれば時間はかからなくなるが、その代わり自由な時間に登校はできなくなる。2便だすにしても時間は決められる。実際は、遠い子どもたちは親が送り迎えをしていると思う。

古関教育総務部長：朝晩、原則2便で、豊住中と同様の運行となると思われる。

佐藤教育長：ただ、細かくバス停を置くことが難しい。家から500m以内の場所に置くことは大栄地区の場合は難しい。自宅からバス停まで、バスの走れる道路に出るまでかはいかかることも考えられる。大栄地区は道路網があまり良くない。

委員：この1校の統合と小中一貫教育については、大体決まりか。

佐藤教育長：どの地域の説明会でも反対意見は殆どなかった。子どもが歩いて行ける距離に学校があるべきと桜田小で1名の方が反対されたくらいである。其々の学校が小さくなっていく中で、まず大須賀小が複式になってしまう。当初案の2校に統合することの中では、川上小の児童数が予想よりも伸びなかったため、前林小と一緒にしても2クラス編成に出来なくなってしまい、統合するメリットが無くなってしまう。地元としても新しい校舎も作るようになっており、下総地区では一つになって小中一貫が始まることも聞いているので1校案には反対していない。

委員：地域としては早く進めてほしいという意見が多いのか。

佐藤教育長：地元は、具体的な案を出して早く進めてほしいという考えである。

委員：保護者も現在の小さな学校に対する危機感もあるだろうし、成田地区の校舎のような新しい立派な校舎を見れば、新しい学校への期待感もあるものと思う。

#### 4. 委員長閉会宣言